

# 令和元年度（平成31年度）「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

## 「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

**1 調査日** 平成31年4月16日（火）

**2 調査対象** 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

### **3 調査内容**

#### (1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立山中小学校

令和元年度（平成31年度） 国語（実施学年2～6年）

(1) 国語科の定着状況についての概要

		国語への 関心・意欲・態度			話す・聞く能力			書く能力			読む能力			言語についての 知識・理解・技能		
		H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31
2年	目標値			68.1			74.3			61.4			69.3			90.0
	全国正答率			67.1			79.0			56.5			68.8			95.5
	校内正答率			<b>69.0</b>			<b>80.4</b>			<b>59.2</b>			<b>72.1</b>			<b>97.5</b>
3年	目標値		73.8	70.6		68.0	75.7		83.3	67.8		67.5	60.6		90.0	77.7
	全国正答率		77.0	71.6		71.3	77.9		86.4	66.8		70.7	60.5		94.6	80.9
	校内正答率		<b>76.0</b>	<b>75.8</b>		<b>69.2</b>	<b>80.5</b>		<b>87.3</b>	<b>72.8</b>		<b>72.0</b>	<b>61.4</b>		<b>89.6</b>	<b>83.0</b>
4年	目標値	75.6	68.1	62.5	71.0	77.1	62.0	78.1	59.5	59.5	66.4	63.6	67.9	90.0	81.4	69.8
	全国正答率	81.0	68.6	61.6	75.3	80.8	62.0	84.8	58.0	56.2	69.6	63.8	67.9	95.7	84.3	70.6
	校内正答率	<b>85.5</b>	<b>71.8</b>	<b>68.1</b>	<b>81.3</b>	<b>81.9</b>	<b>64.6</b>	<b>88.3</b>	<b>62.8</b>	<b>67.7</b>	<b>76.6</b>	<b>69.8</b>	<b>77.1</b>	<b>97.2</b>	<b>89.2</b>	<b>75.2</b>
5年	目標値	65.6	66.9	64.4	63.0	67.0	76.7	65.6	62.7	57.7	64.3	65.0	68.4	80.9	71.0	72.6
	全国正答率	71.8	66.8	68.7	67.8	67.0	83.8	74.3	62.6	60.9	70.9	64.5	69.4	89.1	73.8	78.5
	校内正答率	<b>71.7</b>	<b>72.9</b>	<b>65.8</b>	<b>71.9</b>	<b>70.9</b>	<b>83.6</b>	<b>70.2</b>	<b>71.7</b>	<b>56.1</b>	<b>72.9</b>	<b>68.8</b>	<b>72.4</b>	<b>93.3</b>	<b>82.3</b>	<b>82.1</b>
6年	目標値	68.1	61.9	66.3	71.1	60.0	80.0	61.4	56.0	57.7	63.9	71.6	63.1	67.4	70.4	71.0
	全国正答率	68.3	62.3	69.4	70.6	60.3	86.6	62.3	57.4	60.3	68.9	74.9	63.5	72.8	76.4	74.1
	校内正答率	<b>71.0</b>	<b>66.3</b>	<b>70.4</b>	<b>73.5</b>	<b>67.2</b>	<b>89.2</b>	<b>67.6</b>	<b>59.4</b>	<b>61.9</b>	<b>70.9</b>	<b>82.6</b>	<b>70.3</b>	<b>78.8</b>	<b>78.0</b>	<b>77.1</b>

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

※校内正答率が全国正答率より5ポイント以上、上回る観点には網掛け

昨年度の学力定着度調査では、全体を通して目標値を上回るものが多かった。今年度においても、どの学年、どの観点もおおむね目標値に達成している。観点によっては、目標値よりも5ポイント以上、上回るものもある。

(2) 具体的な課題とその要因

学年全体を通して、「話す・聞く能力」が全国正答率とほぼ同程度で、昨年と比べてもあまり向上していないことが課題として挙げられる。具体的には、第4学年「聞きたいことをもとにインタビューの質問を考えることができる」や「インタビューの質問のねらいを理解することができる」、第5・6学年「司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめることができる」の正答率が低くなっている。

このことから、話の内容を聞き取り、それを基に自分の考えをまとめたり、他者の考えと自分の考えとを比較したりすることに課題があることが分かる。その要因として、自分あるいは他者の考えを自分なりにまとめ、記したり発言・発表したりする機会が少ないことが考えられる。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

「話す・聞く能力」の力を伸ばしていくために、日常的に「考えて話させる機会」や「考えて聞く機会」を各学年・各学級に応じて増やしていく。具体的には、朝の会のスピーチや日々の授業で聞き手を意識した話し方を考えさせたり、目的をもって伝えさせたり、聞かせたりしたい。次年度は「話す・聞く能力」の観点が全国正答率より5ポイント以上、上回ることを目指していく。

令和元年度（平成31年度） 社会 （実施学年4～6年）

(1) 社会科の定着状況についての概要

		社会的事象への 関心・意欲・態度			社会的な 思考・判断・表現			観察・資料活用の 技能			社会的事象についての知 識・理解		
		H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31
4年	目標値			61.1			60.0			65.2			70.3
	全国正答率			62.7			61.9			66.1			71.7
	校内正答率			<b>69.3</b>			<b>69.2</b>			<b>72.0</b>			<b>72.7</b>
5年	目標値		54.3	53.3		56.8	54.4		69.6	51.5		67.1	59.0
	全国正答率		54.7	58.5		57.1	57.4		69.1	50.8		66.8	60.0
	校内正答率		<b>62.2</b>	<b>58.9</b>		<b>64.3</b>	<b>57.4</b>		<b>70.6</b>	<b>54.9</b>		<b>70.7</b>	<b>65.9</b>
6年	目標値	63.8	59.0	59.4	64.7	60.7	63.1	72.1	60.5	66.0	75.5	63.2	63.9
	全国正答率	62.4	61.4	62.7	66.4	62.7	65.5	76.0	60.1	66.6	78.1	62.9	63.9
	校内正答率	<b>62.1</b>	<b>61.2</b>	<b>56.5</b>	<b>64.9</b>	<b>61.9</b>	<b>59.9</b>	<b>72.0</b>	<b>61.1</b>	<b>67.6</b>	<b>75.4</b>	<b>62.1</b>	<b>63.5</b>

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

※校内正答率が全国正答率より5ポイント以上、上回る観点には網掛け

昨年度までの学力定着度調査では、資料の読み取りや、そこからの関連性や事実を読み取ることが、目標値の同程度かやや下回る結果であった。

今年度は、概ねどの観点も目標値に対し5ポイント以上下回る観点はなく、同程度、もしくは観点によっては5ポイント以上、上回るものもある。また、昨年度、設問によっては正答率の低かった「観察・資料活用の技能」の力も身に付いてきているといえる。しかし、全国正答率と校内正答率を比較すると、学年が上がるにつれて、同程度かやや下回る観点もある。

(2) 具体的な課題とその要因

どの観点も目標値より5ポイント以上下回る観点はなく、概ね基本的な学習内容は身に付いているといえる。設問によっては、正答率の低い「社会的な思考・判断・表現」の力が課題である。

実際の設問では、第4学年「地図記号を用いる意義を考え、その内容を表現することができる」、第5学年「地域の発展に尽くした先人の願いについて、資料をもとに考えて、表現することができる」、第6学年「生産者や消費者を結び付ける取り組みについて考えることができる」などの正答率が低かった。また、第4・5学年は、表現する力が求められる記述式の正答率が低くなっている。

社会的事象の特色や意味を考える力、よりよい社会の発展に向けての解決策や関わり方を考えることに課題がある。その要因として、考えたことや選択・判断したことを表現する活動や自ら課題を見出し、解決する方法を考える活動が少ないと考えられる。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

「社会的な思考・判断・表現」の力を伸ばしていくために、授業の中で、グラフや資料の読み取りをし、事象から考えたことを文章で表現する活動を意図的に取り入れる。また、自ら課題を見出し、その解決方法を考え、よりよい社会への関わり方を考える活動を行っていく。次年度は「社会的な思考・判断・表現」の観点が目標値より5ポイント以上、上回ることを目指していく。

# 令和元年度（平成31年度） 算数 （実施学年2～6年）

## （1）算数科の定着状況についての概要

		算数への 関心・意欲・態度			数学的な 思考・判断・表現			数量や図形についての技 能			数量や図形についての知 識・理解		
		H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31
2年	目標値			69.5			72.7			83.0			84.3
	全国正答率			70.7			74.8			87.2			86.8
	校内正答率			<b>72.6</b>			<b>77.3</b>			<b>87.9</b>			<b>90.9</b>
3年	目標値		71.1	60.0		68.4	62.6		82.5	77.9		83.2	70.5
	全国正答率		70.4	59.1		67.8	62.4		86.2	80.2		84.7	72.8
	校内正答率		<b>75.3</b>	<b>63.5</b>		<b>68.7</b>	<b>61.6</b>		<b>88.0</b>	<b>81.8</b>		<b>88.8</b>	<b>74.2</b>
4年	目標値	65.6	61.0	66.4	70.7	67.2	57.4	82.5	76.9	76.2	83.1	71.1	73.4
	全国正答率	66.5	63.3	67.4	72.5	65.5	58.6	86.2	80.0	78.4	87.6	70.8	75.6
	校内正答率	<b>73.5</b>	<b>71.7</b>	<b>73.7</b>	<b>76.6</b>	<b>73.2</b>	<b>69.3</b>	<b>88.0</b>	<b>80.5</b>	<b>84.0</b>	<b>84.6</b>	<b>76.1</b>	<b>81.3</b>
5年	目標値	56.5	72.5	56.7	63.9	64.4	56.6	76.9	76.1	69.0	69.8	74.7	66.1
	全国正答率	58.2	71.4	56.0	68.6	66.5	56.7	80.0	79.8	69.9	75.6	74.7	67.4
	校内正答率	<b>55.9</b>	<b>69.6</b>	<b>53.9</b>	<b>67.5</b>	<b>65.9</b>	<b>55.0</b>	<b>80.5</b>	<b>83.8</b>	<b>71.5</b>	<b>71.8</b>	<b>75.7</b>	<b>67.0</b>
6年	目標値	67.5	57.5	38.0	60.6	61.1	51.7	76.1	71.4	67.6	74.0	66.9	65.0
	全国正答率	71.0	51.0	35.4	66.1	57.5	50.3	79.8	74.2	68.4	77.0	64.4	65.9
	校内正答率	<b>75.4</b>	<b>52.8</b>	<b>44.7</b>	<b>73.6</b>	<b>60.9</b>	<b>55.8</b>	<b>83.8</b>	<b>76.9</b>	<b>71.0</b>	<b>81.0</b>	<b>67.1</b>	<b>67.0</b>

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

※校内正答率が全国正答率より5ポイント以上、上回る観点には網掛け

昨年度までの学力定着度調査では5,6年生の算数への意欲・関心・態度が目標値の同程度かやや下回る結果であった。

今年度は、概ねどの観点も目標値に対し5ポイント以上下回る観点はなく、同程度、もしくは観点によっては5ポイント以上、上回るものもある。しかし、全国正答率と校内正答率を比較すると、学年が上がるにつれて、同程度かやや下回る観点もある。

## （2）具体的な課題とその要因

どの観点も目標値より5ポイント以上下回る観点はなく、概ね基本的な学習内容は身に付いているといえる。設問によっては、正答率の低い「数学的な思考・判断・表現」が課題である。

実際の設問では、第2学年は「色板を使ってできる形の、色板の枚数を比較することができる」第3学年は「加法の結合法則を理解し、式の意味を考慮することができる」第5学年は「地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明することができる」や第6学年は「グラフ1が西町のグラフであることを、根拠を示して説明することができる」などの正答率が低かった。

図やグラフなどから、必要な情報を読み取り表現する力に課題がある。その要因として、考えたことや選択・判断したことを表現する活動や自ら課題を見出し、解決する方法を考える活動が少ないと考えられる。

## （3）課題解決のための方策と次年度の数値目標

「数学的な思考・判断・表現」の力を伸ばしていくために、授業内で図や表、グラフから何が読み取れるかを考える活動を意図的に取り入れる。また事象から考えたことを文章で表現する活動を意図的に取り入れる。次年度は「数学的な思考・判断・表現」の観点が目標値より5ポイント以上、上回ることを目指していく。

令和元年度（平成31年度） 理科 （実施学年4～6年）

(1) 理科の定着状況についての概要

		自然事象への 関心・意欲・態度			科学的な 思考・表現			観察・実験の 技能			自然事象についての 知識・理解		
		H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31
4年	目標値			62.1			58.2			66.3			63.5
	全国正答率			64.4			59.4			67.3			65.1
	校内正答率			<b>61.0</b>			<b>61.0</b>			<b>64.3</b>			<b>61.3</b>
5年	目標値		76.3	63.3		61.3	62.5		80.5	75.0		70.7	68.1
	全国正答率		81.0	65.6		64.0	63.9		85.9	78.3		73.4	70.0
	校内正答率		<b>79.8</b>	<b>59.7</b>		<b>64.4</b>	<b>63.4</b>		<b>86.9</b>	<b>65.9</b>		<b>72.7</b>	<b>68.2</b>
6年	目標値	67.7	70.5	61.3	58.4	63.6	57.3	64.4	70.5	43.5	67.2	71.3	63.0
	全国正答率	73.0	72.7	62.1	62.5	66.0	57.4	66.5	75.5	37.3	71.5	73.9	62.8
	校内正答率	<b>67.6</b>	<b>70.4</b>	<b>66.3</b>	<b>58.7</b>	<b>67.6</b>	<b>60.5</b>	<b>57.3</b>	<b>75.7</b>	<b>39.4</b>	<b>65.6</b>	<b>68.4</b>	<b>63.3</b>

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

※校内正答率が全国正答率より5ポイント以上、上回る観点には網掛け

昨年度までの学力定着度調査では、自然現象について理解することと、考えたことを表現する力を付けることが課題であったが、今年度の調査では、第5学年、第6学年で「科学的な思考・表現」と「自然事象についての知識・理解」の目標値を上回る結果となった。しかし「観察・実験の技能」の観点では全学年が目標値を下回る結果となった。

(2) 具体的な課題とその要因

具体的に設問内容を分析すると、第4学年は「ハウセンカの正しい種まき」「植物の育つ順序」「トンボの育ち」「電気の回路の理解」「日光を集めた部分の大きさや明るさや温度との関係についての理解」が、第5学年では「気温を正しく測ること」「水を温めると体積が大きくなること」「電流についての理解」「豆電球が光る仕組みを推測すること」が、第6学年では「顕微鏡で見た時のアサガオの花粉についての理解」「カバーガラスについての理解」「顕微鏡を正しい手順で使うこと」「ふりこの実験を正しくやり直したときの結果の推測」が目標値を大きく下回っていた。

全学年を通して、「観察や実験の技能」が身に付いていないのは、観察や実験の際に基本操作の習得が不十分であることが考えられる。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

「観察や実験の技能」を高めるために、教科書やワークシート、資料を用いて正しい技能を理解した上で、観察や実験をする時間を十分にとり、習熟を図る。また、グループ学習や二人一組の学習など様々な学習形態を用い、器具に触れる機会を増やす。観察や実験を通して児童自らが興味関心をもち、意欲的に課題を解決したいと思える学習の仕組みづくりにも力を入れたい。

次年度は「観察・実験の技能」の観点が目標値より上回ることを目指していく。